

2024年度 法科大学院

第5期入学試験問題

3 時限

刑法

(論文式)

試験時間 50 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[刑法]

次の事例における甲、乙及び丙の罪責について論じなさい。

【事例】

- 1 甲はA県B市のC総合病院にて心臓病科医として勤務していた。また、乙はA県B市のD総合病院にて内科医として勤務していた。甲と乙は、同じ大学の医学部出身であり、乙の方が3年先輩であった。
- 2 乙の妻Vは重度の狭心症に罹患したために、令和5年11月1日、乙は、後輩である甲のいるC総合病院に、妻Vを入院させた。乙は、妻Vを入院させるに際し、甲を主治医とするように依頼し、甲はこれを引き受けた。Vは、毎日、気に食わないことがあると、甲や担当看護師である丙を、他の患者の前で「やぶ医者。へぼ看護師。」などと繰り返し罵倒していた。甲は、Vのそのような態度に悩まされ、我慢の限界を超えていた。
- 3 令和5年12月1日、甲は、乙の妻Vの殺害を決意し、情を知らない担当看護師丙に、毒入りの注射器を渡して、「狭心症を抑える注射なので、Vに注射して下さい。」と依頼した。その注射器には、狭心症を悪化させて心臓麻痺を生じさせる30ccの注射液が入っていたが、重度の狭心症のVとの関係では、その半分である15ccで死に至る危険があった。
- 4 丙は、最初は毒入り注射器であることに気が付かなかったが、Vの病室に行く前にその注射器に毒が入っていることに気が付いた。丙は、甲がVを殺害しようとする意思を察知し、自分も常日頃からVの態度に憤りを感じていたため、Vを殺害しようと決意した。
- 5 丙がVの病室に行ったところ、夫である乙医師が見舞いに来ていた（丙は乙医師と面識があった）。丙は「狭心症を抑える注射をしますね。」と言って、Vに注射を打った。丙がVの血管に当該注射液を15cc注入したところで、Vが苦しみ始めたため、乙は何か異常なものが注射されていることに気が付いた。そこで、乙は、注射している丙を突き飛ばしたところ、丙はベッドの鉄製の枠に頭をぶつけて、加療約2週間を要する傷害を負った。
- 6 乙は、丙に対して、「お前、何をしたんだ。」と叫んだ。丙は、「申し訳ありません。毒入りの注射をしました。乙先生、蘇生措置をお願いします。私も協力します。」と言った。乙は、懸命に、妻Vの蘇生措置を取った結果、Vは一命を取り留めた。なお、乙の蘇生措置の間、丙には出る幕がなく、乙の蘇生措置のみでVは一命を取り留めた。

以上